

岐阜市今嶺地先の長良川左岸の河川工事現場で、CIM(コンストラクション・インフォメーション・モデリング)の活用を見据えた無人航空機(UAV)を使った空からの試験測量飛行が2月25日に行われた。国土交通省や岐阜県内の市町の技術職員ら約80人が参加した。写真。

実施したのは国土交通省木曽川上流河川事務所が発注した「長良川今嶺河道掘削工事」現場。施工を担当する市川工務店(岐阜市)と共同でUAVの活用を検討してきた日創建(名古屋)らが上空約50mから約20分間空撮するデモンストレーションを行った。

また、事前に撮影した写真を合成した3次元画像を公開し、約7万平方メートルの現場で、従来のTS測量で実施したデータとの比較で誤差が数十センチ程度だったことが報告された。また、立ち入り困難な中州でも堆積土量が確認できたことで、今後は災害現場の状況把握や復旧計画への支援などの活用が期待される。市川工務店の山田潤一専務は「まだ研究段階ではあるが、発注者と一丸となって取り組んでいくことでさらなる技術の向上が見込まれる」と話した。CIMは計画段階からICTツールや3次元モデルを導入、活用することで土木事業全体の生産性の向上を図ることを取り組み。



長良川左岸の工事現場で
無人航空機試験測量飛行

CIM活用へテイクオフ